

金ケ崎町立永岡小学校

2014年11月5日(水)

金ケ崎町立永岡小学校5~6年生40名は、世界の子どもたちの状況とユニセフ支援活動の一つである「水と衛生」、子どもの命を守る経口補水塩・水がめ・蚊帳の体験学習。



盛岡市立上田小学校 5年生

2014年11月12日(水)

世界にはさまざまな国があり、その国に住む子どもたちはどんな暮らしをしているのでしょうか。今回は、「栄養不良の子どもを救おう」について一緒に学び、小さい命を守るために自分たちにはなにができるか考えました。



大船渡市立末崎中学校

2014年11月19日(水)

DVD「この世界に生きる子どもたち」を鑑賞し、「ユニセフと東日本大震災」について学びました。東日本大震災直後、岩手県にユニセフ支援活動に最初に入った安田直史さんは、ユニセフベトナム現地事務所からかけつけました。ユニセフ支援の教科書・学校カバンなど見ながら、ベトナムの子どもたちに思いを寄せ、世界の子どもたちのために、自分たちに何ができるか班ごとに話し合いました。

▲ネパールの女の子は水がめで水くみを…梅澤さんのお話に実際に持ってみて、軽々とは書けない男子生徒の水くみでした。

久慈市立大川目中学校 2年生 来訪

2014年11月21日(金)

久慈市立大川目中学校2年生20名が全校で取り組んだユニセフ募金43,730円を加藤善正副会長に届けていただきました。「みなさんの募金は恵まれない子どもたちに使わせていただきます」とお礼を述べました。



ユニセフ・写真パネル展

アグネスチャン大使が見た「中央アフリカ」



アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が昨年4月中央アフリカ共和国を訪問した時の記録をもとにした「アグネスチャン日本ユニセフ協会大使が見た「中央アフリカ」レポート」写真パネル展を下記の日程で、盛岡市と花巻市で開催します。

盛岡会場
会場：盛岡市プラザおでって2F ギャラリー
日時：2015年3月5日(木)～3月8日(日)
※盛岡会場では、県ユニセフ協会事務局の遠山あゆみスタッフによる「東ティモールスタディツアー報告」…3月7日(土)と8日(日)の両日の13時から

花巻会場
会場：花巻市 妙円寺
日時：2015年3月19日(木)～3月22日(日)

※期間中10時～17時開催(ただし最終日は15時まで)

会場では…ユニセフ募金、募金につながる「書き損じハガキ」「外国コイン」「古切手」を受け付けています。ご協力ください。

2014年度ユニセフ募金

1,081万8,892円

2014年1月1日～2014年12月31日

- 一般募金(生協ネパール指定募金含)
- シリア緊急募金
- フィリピン台風緊急募金

ユニセフ賛助会員：団体3、個人187、学生2

第5回 ユニセフラブウォーク in いわて

お父さん・お母さん、お友だちと一緒に参加しませんか!



思い思いのペースで歩いた汗がユニセフを通じて発展途上国の子どもたちの健康に役立てられるユニセフ・ラブウォーク。参加費がユニセフ募金となるこの運動は1965年にイギリスで生まれ、日本では1983年に始まりました。

▲心地よい風をうけながら…昨年の参加者

日時	2015年 5月24日(日)
会場	盛岡城跡公園広場 スタート・ゴール 5km・10km
受付	8:30～ 出発式 9:15
スタート	10km…9:30 / 5km…9:45
参加費	●大人…500円 ●子ども(18歳未満)…200円 (ユニセフ募金、保険の費用を含む)
定員	300名

お申し込みは

住所・氏名・年齢・コースを明記の上、TEL・FAX・Eメールいずれかでお申し込み下さい。

申し込み先 岩手県ユニセフ協会

〒020-0690 滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2階
TEL:019-687-4460 FAX:019-687-4491
E-mail:sn.iunicef_iwate@todock.jp

主催

岩手県ユニセフ協会、岩手県ウォーキング協会、盛岡市ウォーキング協会

あとがき

○キャラホール少年少女合唱団20周年記念コンサートおめでとうございます。東日本大震災の年から大槌キッズコーストあぐだめと交流支援を続け、2月15日20周年記念コンサートのステージではお友達と元気に歌いました。感動的なステージ、そして幸せなひとときをありがとう。
○ユニセフ・ハンド・イン・ハンド街頭募金活動は、中学生・高校生・大学生の参加が年々増えており、ユニセフの活動の広がりと世界に向けて関心と理解がすすんでいることはとてもうれしいです。(事務局)



〒020-0690
岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail: sn.iunicef_iwate@todock.jp
ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/

すべての子どもにとってより良い世界を

「子どもの権利条約25周年の今年、これまでに世界の子どもたちのために成されてきた多くの成果を祝う一方で、何百人もの子どもたちが残酷な暴力に巻き込まれ、子どもの権利を奪われているという事実はとても悲しく、皮肉なことです」とユニセフ アンソニー・レーク事務局長は語ります。

「暴力やトラウマは、一人ひとりの子どもたちを傷つけるだけでなく、社会の強さを損ないます。2015年が、すべての子どもにとってより良い年となるように、世界はもっと努力ができます。努力をしなければなりません。すべての子どもたちが、安全な環境で、強く健康に育つことができ、教育を受けることができれば、その子どもたちは自分自身や家族、コミュニティ、そして国に貢献する人材となり、つまりは、世界が目指す共通の未来を一緒につくっていく人となるのです」



▲エボラ出血熱の症状や予防法が描かれたポスターを配るユニセフのスタッフ。(リベリア)

2014年は子どもたちにとって“恐怖と失望”の年に

ユニセフ(国連児童基金)は2014年12月8日、2014年は世界中の何百万人もの子どもたちにとって、恐怖と失望の年であると発表。世界各地で起きている武力衝突が激しさを増し、子どもたちが争いの当事者である武装勢力によって、強制的に徴用され、故意に標的とされているにもかかわらず、それらの多くの危機がもはや世界から忘れ去られていることに、警鐘を鳴らしています。
ユニセフのアンソニー・レーク事務局長は、「世界の何百万人もの子どもたちにとって、壊滅的な年になりました。教室で勉強しているときや、ベッドで眠りについているときに、子どもたちは殺害されています。親を亡くし孤児になり、誘拐され、拷問を受け、軍に徴用され、レイプされ、さらには奴隷として売られている子どもたちがいます。これほどまでに多くの子どもたちが、言葉にできないほど残忍な行為の対象となったことは、最近の記憶にはありません」と述べます。

紛争の影響のある国や地域で暮らす子ども 2億3,000万人

1,500万人もの子どもたちが、中央アフリカ共和国、イラク、南スーダン、パレスチナ、シリア、そしてウクライナで起きている紛争や武力衝突に巻き込まれています。その数には、国内に避難している子どもたち、国外で難民として暮らしている子どもたちも含まれています。現在、世界で2億3,000万人もの子どもたちが、武力衝突の影響がある国や地域で生活していると推定されています。

2014年、何百人もの子どもたちが、学校敷地内あるいは登下校中に誘拐されました。何万人もの子どもたちが軍や武装グループによって徴用されています。学校や保健施設への攻撃、そして、軍事目的で校舎が利用されるケースがあらゆる地域で増加しています。



▲避難所で食べ物を分け合っている子どもたち。(南スーダン)

「第3回国連防災世界会議」

ユニセフシンポジウム～東日本大震災の経験を、“次”への備えに宮城県仙台市で3月14日(土)開催、1000名様をご招待

日本ユニセフ協会と岩手・宮城・福島各県のユニセフ協会は、子どもの視点での復興や防災を考えるユニセフシンポジウムを、「第3回国連防災世界会議」の公式イベント(パブリックフォーラム)として、3月14日(土)、宮城県仙台市の東京エレクトロンホール宮城で開催します。第3回国連防災世界会議の主要テーマは、「レジリエント(災害に強い=しなやかで回復力のある)社会づくり」。本シンポジウムでは、わたしたちの普段の生活の中でもこの次にされがちな子どもの「遊び」、「居場所」、「参加」をキーワードに、ユニセフや国内の専門家が、東日本大震災の被災地での経験をベースに、防災や復興、万が一への備えの在り方について議論を深めます。コーディネーターは、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさん。午後2時15分開場、同2時30分開演。参加無料。



<p>中央アフリカ共和国</p> <p>中央アフリカ共和国では学校へ戻るキャンペーンが行われており、66万2,000人の子どもたちが、安全な環境が確保された学校に戻れるようになります。</p>
<p>イラクやシリア</p> <p>イラクやシリアで確認されたポリオの感染拡大をくいとめるため、およそ6,800万回分の経口ポリオワクチンが、中東地域の国々に輸送されました。</p>
<p>南スーダン</p> <p>南スーダンでは、7万人以上の子どもたちが、重度の栄養不良の治療を受けています。</p>
<p>エボラ感染が確認されている国々</p> <p>エボラ感染が確認されている国々では、地域のケアセンターやエボラ治療ユニットへの支援、感染リスクを減らすための保健員の研修や啓発キャンペーン、そして、エボラによって孤児となった子どもたちへの支援を通して、各コミュニティ主導の、エボラ終息へ向けた取り組みが続けられています。</p>

誰もが大切な“いのち”

2014ユニセフ・ハンド・イン・ハンド街頭募金活動に477名のボランティア参加



毎年失われる5歳未満児の630万の幼い命。その3分の1が肺炎、下痢、マラリアの3つの予防可能な原因によるものです。日本では予防や治療が可能で、本来守れるはずの命です。ユニセフは世界の子どもの命を守るために、予防接種や安全な水、医薬品、蚊帳の提供、衛生施設の拡大など、三大死因に対する取り組みを大規模に実施しています。世界のどこに生まれても、誰もが大切な“いのち”。

2014ハンド・イン・ハンド街頭募金活動は、花巻市12月6日(土)、盛岡市12月13日(土)、14日(日)で実施し、中学生・高校生・大学生・一般ボランティア477名(内子ども422名)が参加しました。

ユニセフ募金額は469,720円でした。

はじめに「紙芝居」で世界の子どもたちを知り、ユニセフの活動を学び募金活動をしました。参加されたボランティアのみならず、寒い中ご協力ありがとうございました。



▲アネックスカワトク



▲紙芝居をみんなで見てから募金活動

参加校

- | | | |
|------|-----------|--------|
| 【花巻】 | 南城中学校 | 花巻北高校 |
| 【盛岡】 | 乙部中学校 | 見前南中学校 |
| | 大宮中学校 | 河南中学校 |
| | 土淵中学校 | 松園中学校 |
| | 盛岡商業高校 | 盛岡南高校 |
| | 盛岡白百合学園高校 | 盛岡北高校 |
| | 盛岡中央高校 | 盛岡大学 |



▲Mossビル



▲ホットライン青町



▲Mossビル記念写真



▲イオンモール盛岡



▲イオンモール盛岡南



▲カワトク

参加した生徒の声から

○私は、初めて募金活動を体験しました。募金をしてもらった時は、これまでに経験したことのない喜びを感じました。これからは募金をする側として、子どもを救うための募金をしたいと思います。(中学生)

○募金をしてくださった方々には本当に感謝したい気持ちです。5秒に一人亡くなっているという現実には悲しい反面、協力したいという気持ちもわいてきました。(中学生)

○ユニセフについて知らなかったことを最初の「紙芝居」で知ることができ、集まった募金が子どもたちのために広く使われていることが分かった。また、募金活動を通して世界のことを考えている人が思っているほど多いことを知った。今、自分が恵まれている環境にいることに甘えてばかりいるのではなく、世界の現状を視野に入れて生活をしたい。(高校生)

○小学生の時からユニセフ募金は知っていて、100円で何人も子どもたちが救われることはすごいと思っていました。世界には思えない子どもたちが沢山いるという事実から目を背けることなく、私たちはできることをすべきだと思いました。今回の協力を通じて私も進んでいこうと思いました。(高校生)

ユニセフ 東ティモールスタディツアー 2014

岩手県ユニセフ協会 事務局スタッフ

遠山 あゆ子



▲エルメラ県にあるサラマタ小学校の子どもたちと視察参加者

2014年10月26日から11月2日まで、「ユニセフ東ティモールスタディツアー 2014」に参加しました。

東北・北海道と九州・沖縄の生協(岩手県はいわて生協、岩手県学校生協)は、2014年度から「東ティモールにおける新生児と母親のためのコミュニティ保健ケアの改善プロジェクト」への指定募金を開始しました。(現地での活動は2015年に開始)今回の参加者は、東北・九州を中心とし、12名のうち東北からは宮城・福島・山形・岩手から4名が参加しました。

視察は、東ティモールでの同プログラムの行われる、あるいは行われる予定のエルメラ県、アイナロ県での現状を把握することが目的でした。特に、ユニセフが実施する教育と水と衛生に関して、学校や村への訪問も行いました。

東ティモールは、面積約1万4,900平方キロメートル、人口約121万人と岩手県とほぼ同じ国土と人口です。2002年に独立した新しい国

です。ユニセフをはじめ、いろいろな機関や団体の援助により、乳児死亡率、5歳未満児死亡率は改善されてきましたが、新生児(生後28日まで)死亡率については変化がなく、改善に向けての取り組みを強化しているところです。現在、70%が自宅出産であることが、大きな原因になっており、施設での出産を奨励していますが、施設までの遠く険しい道がそれを阻んでいます。

公用語は、ポルトガル語と現地の言葉であるテトゥン語ですが、国内には30以上の言語があり、小学1年生になると、まずはテトゥン語の学習が始まります。険しい山岳地帯と言語の多様さが、教育の普及、医療の充実など様々な問題の原因になっているように見えます。

医療施設、学校を主に訪問し、地域で行われている母親支援グループや、給水施設の管理者の方々とも交流しました。

医療施設は、首都ディリに国立病院が一つあり、比較的設備が整っている県立病院が、全国計5個あります。各地域には保健コミュニティセンターがありますが、分娩専用の部屋がない、電気がない、乾季は水汲みが必要、冷蔵施設が不十分など、様々な問題がありました。

小学校は2校訪問しましたが、子どもたちは明るく元気で、将来の夢を語るキラキラした瞳が印象的でした。サラマタ小学校の子どもたちは大きな声で「手洗いの歌」を歌ってくれました。

石鹸で手を洗うこと、トイレを使うことが、病気を防ぐために有効であることを指導していますが、300人いる小学校で、トイレが3つしかない、石鹸が十分ないなど、様々なものが不足しています。

政情が落ち着き、危機的状況は脱したように見えました。今後は支援がなくなっても自立できるように、人材育成が急がれます。人口の半分が18歳未満という若い国、東ティモール。子ども達の明るい笑顔が、この国の未来を示唆しているように見えます。



▲母親支援グループによる離乳食のデモンストレーション
これまで、離乳食を与えるという習慣がなく、乳幼児の栄養摂取の妨げになっていた。



▲ユニセフ指定募金が使われる予定のハトプリコ保健センター。薬品庫の棚はがらがら。



▲1カ月前にできたばかりのトイレ。全校300人に対して3個だけ。

後藤健二さんありがとう!! そしてやすらかに!!

後藤健二さんの訃報に接し、深い悲しみに包まれています。後藤さんは、世界の紛争地や途上国で極めて困難な状況に置かれている子どもたちの状況を伝えてこられました。東日本大震災被災地にも何度も足を運び取材されました。

岩手県ユニセフ協会



▲大槌町内で取材した後藤健二さん
2011年5月31日
岩手日報2015年2月2日付

メッセージ

東日本大震災前は、定期的にユニセフ募金に協力していた私ですが、被災者となりしばらくお休みしていました。この年末で自宅に居住して3年となり、そろそろ募金に協力しようと思った次第です。あの時、ユニセフから貯水タンクが届いたお陰で保育所給食がスタートしたこと、忘れることが出来ません。陸前高田市 須賀由紀子さん(いわて生協いわいこわ組組合員アンケートから)

～よりそいつながって～ 11～12月の活動

岩手県ユニセフ協会は日本ユニセフ協会と提携して復興支援活動をすすめています。2015年度も沿岸の子どもたちに寄り添いすすめていきます。

東日本大震災復興支援 子どもにやさしい復興をめざして



▲健康祭にプレーカー
11/16陸前高田市



▲ボードゲーム会
11/30大船渡市赤崎大立仮設住宅



▲お父さん支援ゆくり保養
11/29陸前高田市



▲きらりんきつぽ寄せ植え会
12/17陸前高田市



▲折りのツリー
12/13 宮古市田老学童保育



▲大槌キッズコースあぐだまコンサート
12/23大槌町